

社会福祉法人 上越老人福祉協会

令和4年度 事業実施状況報告

目次

1. 全体評価	P 1
(1) 収支状況（前年比）の状況	
(2) 法人組織の組織、機能の再編による強化	
(3) 高品質かつ安定的なサービス提供への取組	
(4) 新型コロナウイルス感染対策及び対応状況	
(5) 課題別プロジェクトの進捗状況	
2. 各管理部の報告	P 5
(1) 総務部	
(2) 事業部	
(3) 財務部	
(4) 情報部	
3. 研修関係	P 7
4. 各事業（グループ）の報告	
(1) いなほ園グループ	P 9
(2) 新光園グループ	1 1
(3) 高田の郷グループ	1 3

添付（資料集）

令和4年度法人事業実施状況報告

1. 全体評価

(1) 収支状況（前年比）の状況

①法人全体の状況

収入は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け微増にとどまった。

特に通所3事業は2度の感染拡大期（第7波、8波）に事業所内の感染発生とそれに伴う休止、未感染者の利用控えにより利用者数は減少した。

また、入所施設においても施設内での発生により入退所に少なからず影響を与えた。それでもいなほ園では専門職の増員、新たな加算を算定したことによる収入増、小規模事業所における加算算定、利用率の安定など一定の成果につながる取組もあった。

支出は特に資源価格高騰の影響を大きく受け、電気代は22,380千円増（前年比44.8%増）、他にもガス代6,888千円増（前年比30.4%増）、燃料費7,225千円増（前年比19.6%増）のいずれも大幅な支出増となった。また、新型コロナウイルス感染症が複数の施設で発生したことと予防策のため、衛生用品代が前年比で増加したことも影響を与えた。この他、人件費の高騰及び新光園においての高額備品の整備なども差額の結果に起因したところである。

これら要因により、当期資金収支差額△18,869,531円の厳しい結果となった。

なお、事業活動計算書のサービス活動収益は2,452,342,002円（前年比0.8%増）、サービス活動費用は2,440,198,400円（前年比4.2%増）、サービス活動増減差額は12,143,602円（前年比82.7%減）の大幅な減益であった。

※参考（資金収支決算状況）	H29年度	△35,065千円
	H30年度	59,656千円
	R1年度	45,599千円
	R2年度	80,590千円
	R3年度	46,005千円
	R4年度	△18,870千円

②各事業の状況

3特養は利用者の重度化に伴う状態低下ため入院、(死亡)退所が多数発生、併せて新型コロナウイルス感染症の拡大により新規入所、短期利用が進まず利用率は低下した。一方、老人保健施設は開設後最も高い利用率となったが、支出が予想以上に増大したため収支状況は悪化した。

なお、要介護度については3特養とも平均4.2を超えこれまでで最も高い水準となり取組の成果が見られた。

施設名	利用率	介護度の差異（前年）	サービス活動差額
いなほ園	97.5%	4.2（4.2）	4,858千円
新光園	98.0%	4.2（4.1）	11,535千円
みずほ園	98.6%	4.3（4.2）	8,578千円
高田の郷	97.8%	2.6（2.8）	△9,227千円

新光園デイサービスは、8月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したため5日に亘り営業を休止した。また、いなほ園デイサービスセンターも同様に感染拡大期は利用者の使い控えが多く、ともに利用率の低下につながった。

高田の郷通所リハビリは6月のリニューアル後、利用者の入れ代わりによりしばらく低迷したが12月以降は利用率70%を超え、3月には70%後半まで伸びた。次年度には目標を達成するよう取組を継続する。

施設名	利用率	介護度の差異（前年）	サービス活動差額
いなほ園通所	88.0%	2.0（2.0）	12,792千円
新光園通所	83.1%	1.8（1.9）	2,815千円
高田の郷	64.7%	1.4（1.7）	△6,178千円

なかよし寿の家は高利用率を維持、宝寿は8月に新型コロナウイルス感染症が施設内で発生した影響を受けたが後半盛り返した。敬寿も高利用率だったものの建物設備の関係上費用負担が重く減益となった。

また、小規模多機能居宅介護光寿の家の収益は利用率の伸びと要介護枠利用の増加、結果前年比で大きく伸ばした。

施設名	利用率	介護度の差異（前年）	サービス活動差額
敬 寿	99.9%	2.7（3.0）	△7,491千円
なかよし寿の家	99.1%	2.5（2.4）	2,180千円
宝寿の家	97.4%	2.6（2.3）	△1,617千円
百寿の家	97.1%	2.9（2.5）	257千円
本町楽寿の家	96.0%	2.2（2.1）	3,914千円
光寿の家	91.6%	2.5（2.7）	7,537千円

(2) 法人の組織、機能の再編による強化

①法人本部事務局体制の見直し

7月、本部事務局に法人の資金管理の強化と長期の資金計画等作成することを目的として新たに事務長及び事務次長の職責を設け人員を配置した。これにより資金の適正運用に留まらず他法人との比較や法人資金の動向などの経営分析につながった。さらには諸制度の改正に合わせた法人規程の見直し作業等についても中心的な役割を以て進められた。

②新たな管理体制の導入

経営やサービス管理のほか感染症対応等のリスクに対し適切な施設管理をおこなうため主幹事業に新たな管理者を配置した。また、今春より小規模事業所に利用者、サービスのマネジメントを兼ねた管理者を配置し、さらなる管理体制の強化をおこなった。

(3) 高品質かつ安定的なサービス提供への取組

①災害時や感染症に対応する事業継続計画の作成

法人の事業継続計画（BCP）災害編・感染症編の作成を受け、各事業の計画及びマニュアル作成に着手したがいずれの事業においても予定通り進まなかった。

なお、令和5年度末までの完了が義務付けられていることから次年度は総務部及び主幹事業が中心となって取組むこととする。それでも法人内で構築した緊急発生時の連絡システムについては訓練のたびに実績は向上している。

②ICT等の活用による介護負担の軽減への取組

各事業において介護ロボットの導入や業務見直しに取り掛かりサービスの効率化と負担軽減を進めた。下期には新光園において法人初の取組として映像確認が可能なナースコールを設置し負担軽減がより一層進んだ。次年度においても各事業が計画的に進めていくこととする。

③職員採用について

4月1日付採用は管理職員（1名）介護職員（4名）事務職員（1名）言語聴覚士（1名）の計7名、一部職種においては計画が未達となった。なお、介護職員については新規学卒者の採用はなく年度を通じて取組んだ採用活動に成果は見られない。次年度は学生の就職活動ニーズを今一度検証する中で企画、学校訪問を含め取組むこととする。

(4) 新型コロナウイルス感染対策及び対応状況

①感染予防の対応

施設内に立入る直接面会については、感染の拡大状況に合わせ中止、実施を法人として判断、統一した対応により進めた。また、感染予防および高齢者の重度化予防の為に（4，5回目）ワクチン接種を利用者、職員を対象に施設内で実施した。その他各施設においても生活環境や健康管理方法の見直しなどの感染予防策を計画的に実施した。

②感染発生時の対応

第7、8波の拡大期に特養で計3回、老健で1回、グループホーム、通所においてクラスターが発生した。流入経路の殆どは職員（通所は利用者含む）であり、予防対応の限界を感じた。それでも発生後は人員、衛生物資等の供給など法人が連動してスケールメリットを活用した対応により終息につなげた。

また、終息後には対応時の状況を他事業所管理者へ報告する機会を設ける等再発防止に活かした。

(5) 課題別プロジェクトの進捗状況

①外国人就労受入プロジェクト

受入制度については4つの外国人就労に関する制度（EPA、在留資格介護、技能実習、特定技能）の趣旨や特徴、費用面等を比較のうえ、技能実習制度の活用を決定した。

その後、実習の受け入れを調整する管理団体の選定に向け、7団体から説明を聞き情報収集をおこなった。

次年度は管理団体の選定と併せて、実習受け入れ後の生活面や受入マニュアルの検討に取り掛かり令和6年度以降の採用につなげることをとする。

②食事のあり方プロジェクト

年間を通じて、調理職員の働き方の実態把握と改善に努めた。検証のため、全職員を対象にアンケートを実施、結果からは若年層職員を中心に定年まで法人で働きたいとの意見が複数あり3年間の取組の成果を感じる結果となった。

また、前年度に続き、食事委託業者とサービス提供に関する意見交換会を実施した。会を通じて、相互の課題の共有と特に感染症対策と職員採用の取組について理解することができた。

2. 各管理部の報告

(1) 総務部

① 求人活動

新型コロナウイルス感染症の影響により学校訪問がおこなえず資料の郵送や情報提供にとどまった。他、求人サイトを活用したオンライン説明会や就職就説明会では学生7名に対して説明をおこなうが結果、採用にはつながらなかった。次年度は計画を再構築する必要性を強く感じた。

② 職場環境改善委員会の開催

前年度に作成したハラスメントマニュアルの理解と受付窓口担当者に対する研修を計画、各グループ単位で実施した。

その他の活動として、職員の腰痛検診及び研修、ストレスチェック等を実施し労働環境の向上に取り組む。

なお、腰痛予防に関する情報発信やアンケートによる現状把握、意見交換会の実施を通じて、意識付けや腰痛者の減少等の効果がみられた。

③ 職種別連絡会の開催

年度内に3回代表者会議をおこない各連絡会の進捗状況や研修の企画内容の確認、基本サービス指針の内容点検及び更新をおこなった。

(2) 事業部

① 事業所代表者会議の開催

ZOOM開催を取り入れ毎月開催した。一方、下期においてはすべての事業において新型コロナウイルス対策に迫られたため事業課題をブラッシュアップするには至らなかった。

② グループホーム利用者の恒常的な確保対策

待機者確保のため、対策チームを立ち上げ取り組んだ。併せて、各事業管理者の役割分担及び営業方法等の課題を整理した。特に地域性による待機者確保の課題が鮮明になった。

③ 苦情解決委員会の開催

年2回法人全事業に関する苦情報告会を開催した。特に下期には、他事業所の出来事を自らの事業所に反映する目的での意見交換を取り入れ充実した内容となった。

(3) 情報部

① 法人全体の情報管理体制の見直し

DXの推進に向けた取り組みとして、法人サーバの活用方法、アカウント(権限)の管理方法を見直した。また一部でその運用を開始した。

また、法人全職員への新たな情報伝達のツールとしてI ネットメールを活用した。

②いなほシニアネット事業の定着

SNSコンテンツ等、各種情報ツールの活用状況は以下のとおり

ツール	投稿・発行数	アクセス数	その他・特記
ブログ	70回		動画掲載も多数
Twitter	817	フォロワー (537) いいね (5,482)	フォロワー数、 投稿数、いいね数 いずれも大幅増
クックパッド	18件	延べ533,386回	R4年度107,263回 レシピ5,000回保存 つくれば14件
広報誌	2回		下期は食についての こだわりを紹介

(4) 財務部

①中長期の資金管理

大規模修繕等に備えた法人積立を継続して行う事ができた。

これまで資金計画になかった高額設備の修繕が必要となったものがあり、計画にあげる設備等の洗い出しを次年度に行う。

②採算性を重視したリノベーションに関する取り組み

高田の郷空調設備の入れ替えに向けた検討を行ったが、資源高、電気料金の高騰で見積内容の変更が生じたため計画内容の見直しも含め、次年度継続して検討を行う。

3. 研修関係

(1) 法人内研修

実施日	研修名	対象者	講師及び内容	参加者
6 / 24 ～ 6 / 30	共通研修 (パーソン・センタード・ケア) *動画研修	法人全職員 (希望者)	<研修センター、研修委員会主催> <野口春雄管理者(新潟県認知症介護指導者)> ・パーソン・センタード・ケアの基本的な考え方を学び、日常のケアに生かせるようになる。	102名
7 / 19 ～ 7 / 25	共通研修 (アンガーマネジメント) *動画研修	法人全職員 (希望者)	<研修センター、研修委員会主催> <一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 代表 理事 安藤俊介氏> ・怒りなどのネガティブな感情をコントロールするスキルを学ぶ。 ・対人関係を円滑に進めるためのヒントを得て、仕事の効率化やコミュニケーションスキルの向上に役立てる。	134名
8 / 1 ～ 8 / 15	基本サービス研修 (感染症予防)	法人全職員	<リハビリ職員連絡会主催> ・感染症に負けない体づくりの知識や免疫力を高める運動について学ぶ。	348名
9 / 16 ～ 9 / 29	基本サービス研修 (高齢者虐待)	法人全職員	<食事サービス関係職員連絡会主催> ・不適切なケアについての気づきを促し、利用者に寄り添うケアの一例を学ぶことで、自身のケアについて考える。	345名
10/11 ～ 10/24	基本サービス研修 (褥瘡予防)	法人全職員	<ケアマネ連絡会主催> ・褥瘡の基礎知識と多職種連携の重要性を学び、チームケアに生かす。	356名
10/11 ～ 10/25	基本サービス研修 (事故発生予防)	法人全職員	<介護職連絡会主催> ・日常生活の中で常に予防的な対策がとれるよう基本的なリスクマネジメントについて学ぶ。	355名
11/14 ～ 11/25	監督職研修 (BCP計画)	法人監督職	<研修センター、研修委員会主催> ・今後の計画策定に向けて、BCP計画の目的や概要について学ぶ。	58名
11/28 ～ 12/9	共通研修 (健康で働き続けるために) *動画視聴	法人全職員 (希望者)	<研修センター、研修委員会主催> ・生活習慣の改善や休日の過ごし方に対するヒントを学び、自身の健康管理に対する関心を高める。	152名
	基本サービス研修 (看取り)	法人全職員	<看護職連絡会主催> 自分自身の死生観を振り返るとともに他職種の死生観を知り、看取りケアの向上を目指す。	325名
1/10 ～ 1/23	基本サービス研修 (経口維持・経口移行)	法人全職員	<ソーシャルワーカー連絡会> ・摂食嚥下障害、人工栄養の基礎知識に加えて、口から食べる工夫・関わる過程の実践例を学ぶ。	332名
2/20 ～ 3/5	スキルアップ研修 (ノーリフティングケア)	法人全職員 (希望者)	<研修センター、研修委員会主催> ・腰痛軽減や業務改善につながるノーリフティングケアの基礎を学ぶ。	147名

【評価】 感染症対策のため、前年度に引き続き動画を使用した研修が主となった。そのため個人ワークが中心となり、意見交換や共有の場が持てない反面、開催時期については柔軟な対応が可能となり、希望者がもれ落ちなく受講することができた。

基本サービス研修は職種別連絡会主催で定着しているが、連絡会によっては負担が大きいところもあり、研修センターの介入も含めて検討する。

(2) 新潟県受託事業、指定研修事業

事業名	実施日	概要
新潟県認知症 研修事業	R4. 6. 15～R4. 9. 2	認知症介護実践者研修 23名
		認知症介護実践者研修 27名
	R4. 11. 7～R4. 11. 8	小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 24名
	R4. 12. 12～R4. 12. 13	認知症対応型サービス事業管理者研修 30名
喀痰吸引研修 事業	R4. 7. 13～R4. 8. 31	第1回目 14名
	R4. 11. 16～R4. 12. 19	第2回目 9名

【評価】 受託事業は滞りなく実施した。今年度より認知症介護実践者研修のカリキュラムが変更となり講義内容や講義時間などの改訂をおこなった。

また、後期の実践者研修では新潟県よりオンライン開催の要請があり対応した。今後、受講者との連絡調整、機器の設定や準備も含め体制の整備が必要である。

喀痰吸引研修は、受講生の減少はあるものの年2回の実施を継続している。次年度以降の実施回数については、指導看護師の確保や運営体制を考慮して検討したい。

4. 各事業（グループ）の報告

（1）いなほ園グループ事業実施状況

特 養	<p>(利用率) 97.5% (前年) 98.0% (前年比△0.5%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが施設内に流入しクラスターが発生したため（8月、12月）、入院時の空床を埋めるショートステイが制限され、利用日数が減少（353日→137日）したことと、入退所数の7件増加（46件→52件）も影響し利用率が低下した。次年度に向けては、退所から入所までの期間を短縮するため課題を整理し検討会議の複数回開催等の取り組みを行う。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 4,858千円（前年比△12,722千円） ・新たな加算を算定（栄養ケアマネジメント強化加算、口腔衛生管理加算）したため増収（25,252千円）となったが、利用率の低下と水道光熱費、燃料費の増加（12,200千円）が影響を与えた。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士の配置と管理栄養士の増員により、疾病予防としての口腔ケアと利用者の重度化に対応した食事ケアの提供体制を整えることが出来た。
通 所 介 護	<p>(利用率) 88.0% (前年) 89.4% (前年比△1.4%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上期は目標を上回った（92.3%）が、8月以降に利用者、家族の新型コロナウイルス感染が多く発生したため利用率は低下した。その後も感染後の状態低下等による利用中止者が多くなり、年間を通して目標に届かなかった。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 12,792千円（前年比△8,940千円） ・利用率の低下に伴い昨年比で減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの予防策の強化により、事業所内において拡大することなく営業を継続、利用者の在宅生活を支援することが出来た。
み の り の 家	<p>(利用率) 100% (前年) 100% (前年比0%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居1件、退居1件、年度末待機者数23名と年間通して安定していた。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 4,372千円（前年比△124千円） <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人内の3つの軽費にて入居判定基準の見直しと共有ネットワークを活用した待機者管理を実施。空所発生時の速やかな入所に繋げている。
	<p>【みずほ園】(利用率) 98.6% (前年) 98.9% (前年比△0.3%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退所数は昨年同様だったが、入院日数が増えた（56日→68日）ことと新型コロナウイルス発生による新入所の延期が利用率低下に影響を与

米岡の郷	<p>えた。</p> <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 8,578 千円（前年比△782 千円） ・水道光熱費の増加（1,727 千円）と利用率の低下により前年比で減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな協力機関による歯科診療といなほ園歯科衛生士による口腔ケアマネジメントにより、疾病予防として口腔ケアサービスの体制を整えた。 <p>【光寿の家】（利用率）91.6%（前年）88.5%（前年比 3.1%）</p> <p>①利用率状況</p> <p>前年度に営業エリアを拡大したことが好影響となり上期は新規登録者が増加した。また利用終了者は法人内事業所へのサービス変更であり、法人内で切れ目なく支援を継続することが出来た。</p> <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 7,537 千円（前年比 6,933 千円） ・要介護度の適正な申請と高利用率により増収に繋がった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題については、関係者と複数回地域ケア会議を開催し成年後見制度を進め見守り体制の確認を行った。
なかよしの家	<p>（利用率）99.1%（前年）97.5%（前年比 1.6%）</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年より入退所によるロスが少なかった（7件→6件）ことと、待機者の法人内共有サーバー上での管理により速やかな入所に繋がり利用率は安定した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 2,180 千円（前年比 1,696 千円） ・安定した利用率と事務費の削減（△213 千円）により前年比増となった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態変化時や感染症対応について、訪問歯科診療や訪問マッサージを活用し連携して個別対応に繋がった。
宝寿の家	<p>（利用率）97.4%（前年）95.5%（前年比 1.9%）</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に発生した施設内の新型コロナウイルス感染により入院、退所に影響を及ぼし単月 86.7%と大きく低下した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△1,617 千円（昨年度比△1,237 千円） ・職員増による人件費の増額と利用率の低下が影響した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内で新型コロナウイルス感染クラスター発生時は、母体のいなほ園より職員の助勤、協力を得た。また、感染症の発生、拡大原因について検証し対応を法人内事業所に発信、活かしている。

(2) 新光園グループ事業実施状況

<p>特 養</p>	<p>(利用率) 98.0% (前年) 98.8% (前年比△0.8%)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退所件数は26件(前年15件)、入院も24件(前年18件)とそれぞれ大きく増加した。空床発生665日に対する短期入所の活用は延べ83日(8%)と殆ど活用できず減少要因となった。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動収支差額11,535千円(前年比△3,122千円) ・電気代は前年比2,736千円、ガス代は前年比3,256千円増加した。 ・重度化推進、適宜の変更申請により年度末時点での平均要介護度は4.06から4.2まで上昇した。看取りケア、入退所の発生増加に関わる加算が増加した。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化対応に伴い業務負担を考慮したフロア使用方法の検討、2階への特殊浴槽新規導入、映像録画音声録音付ナースコールへの入替など、ケアサービスのさらなる充実のため改善に取り組んだ。令和5年度中の評価につなげる。
<p>通 所 介 護</p>	<p>(利用率) 83.2% (前年) 88.3% (前年比△5.1%)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月発生の新型コロナウイルスクラスターの影響(5日間事業休止)が9月まで続いた。他の月についても感染や濃厚接触者による利用控えなど断続的に発生したため回復しなかった。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額2,815千円(前年比△7,587千円) ・利用率要因のほか要介護、要支援比率が変化し収入低下に至った。 ・職員構成の見直しにより人件費は削減できた。 <p>③ サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎業務は安全運転と当日利用者の事前情報の全体化のためスローガンと月別目標設定を行い取り組んだ。車両破損も含めた事故の減少には至らなかったが職員への啓発効果につながった。
<p>百 寿 の 家</p>	<p>(利用率) 96.8% (前年) 97.6% (前年比△0.8%)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所7件、退所8件、入院9件発生。90歳代の新入所が増加し、1年未満で退所するケースが3件と影響した。特に2月、3月においては入院が4件重なり前年を下回る結果となった。 <p>② 収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額257千円(前年比△3,139千円) ・平均要介護度は2.5から2.9まで上昇した。認知症専門ケア加算につ

	<p>いては安定して算定できるよう新入所時に配慮して取り組んだ。</p> <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の現地指導や外部評価受審時の指摘から、記録の仕方、ケアプランのモニタリングの方法に課題があったため対策を徹底して取り組んだ。
千寿園	<p>(利用率) 99.7% (前年) 99.8% (前年比△0.1%)</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居 8 名、退居 7 名が発生。待機者は法人 25 名、単独 17 名。生活困窮者など困難ケースの申込みが増加している。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 743 千円 (前年比△1,902 千円) ・水道光熱費は前年比 2,329 千円増加。上越市からのエネルギー補填金として 2,860 千円入金された。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の思い込みによる行動から苦情が発生した。権利擁護の視点から定期的な面談と再教育を行った。 ・スリッパ履きが起因する転倒、ヒヤリが全 26 件中 14 件発生。個々の状態変化に着目し状況把握と対策を行った。
ケアハウス上越	<p>(利用率) 100% (前年) 100% (前年比同様)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居 7 名、退居 7 名。待機者法人 16 名、単独 8 名。法人内軽費 3 施設で入居基準の統一を図った。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△171 千円 (前年比 394 千円) ・水道光熱費は前年比 1,223 千円増加。上越市からのエネルギー補填金として 1,941 千円入金された。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止策の中で、入居者の活動が減少し、心身のレベル低下が見られたが、生き生きポイント制による自発的活動の促進や畑作業等、年間を通して入居者の体力維持、健康増進に取り組んだ。

(3) 高田の郷グループ事業実施状況

老健入所	<p>(利用率) 97.8% (前年) 97.4% (前年比 0.4%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機者の情報管理を適切に行ない、速やかな入所に繋げることができた。 ・法人内事業所と連携し、重度者の退所支援を計画的に行った。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△9,227 千円 (前年比△21,532 千円) ・利用率は開設以来最高率となり、収入は 11,611 千円増加した。 ・人件費 21,864 千円、電気代 5,430 千円、燃料代 2,515 千円増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間のノーリフティングケアの取り組みを経て、効果や課題を共有した。方向性の確認や目標を再設定し、サービスに落とし込む必要あり。 ・重度化対応について具体的な進展は見られなかったが、利用者支援を通じて知識や技術を習得し、課題を共有できた。
通所リハ	<p>(利用率) 64.7% (前年) 73.1% (前年比△8.4%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル時に利用者の他事業所移行が多数あり、一時的に登録者が大幅に減少した。リニューアル後の体制整備、利用方法のイメージ定着に時間を要したが、3月には約80%まで上昇した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△6,178 千円 (前年比△5,923 千円) ・定員減により収入は減少した。同様に人件費をはじめ支出も減少したが、リニューアル直後の利用率の低迷が経営に大きく影響した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルで日課を一新。評価、修正を継続し、後期には定着した。 ・活動メニューは『生活に直結したリハビリ』を意識した。他施設との差別化を図るべく多職種と協働して活動メニューを考案した。結果、バリエーション豊かなメニューが多く生まれ、利用者に好評を得た。
敬寿	<p>(利用率) 99.9% (前年) 99.8% (前年比 0.1%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空床は突発的な入院による4日間のみで年間を通じて高利用率を維持。 ・高齢化で重度者が多く、平均要介護度は2.7。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△7,491 千円 (前年比△378 千円) ・高利用率維持で収入は 394 千円増加した。 ・人件費 593 千円、電気代 401 千円、燃料代 114 千円増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操や歩行運動、集団レク、作業的活動、野菜の下ごしらえや家事的作業等を日常的に実施し、できていることが継続するよう援助した。

本町楽寿の家	<p>(利用率) 96.0% (前年) 98.2% (前年比△2.2%)</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規契約 15 名、終了 16 名、夏季の終了者、冬季の入院者が多かった。 ・新規の多くは地域包括支援センターからの紹介であり、早急なサービス調整が必要なケースにも可能な限り対応した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 3,914 千円 (前年比△7,810 千円) ・高利用率維持で収入は 607 千円増加。人件費 5,812 千円、電気代 671 千円増加したことに加え、施設老朽化により修繕費が 1,311 千円増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居、老々介護、家族問題が利用者の生活に影響するケース、ゴミ屋敷の問題など在宅特有の複合的な課題にも対処した。 ・担当職員がサービス内容の検討や変更にかかる情報発信を積極的に行い、現状に合ったサービスの提供及び質の向上に努めた。
居宅介護支援センター	<p>①【給付管理数】 1,584 件 (前年) 1,578 件 (目標 1,680 件)</p> <p>②【予防件数】 390 件 (前年) 360 件 (目標 360 件)</p> <p>③収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 732 千円 (前年比△1,982 千円) ・収入 244 千円増加に対し、人件費は異動により 2,129 円増加した。 ・給付管理数は新規の受け入れを積極的に行ったが、それを上回る終了・サービス未利用者があり目標数に届かなかった。 ・予防、総合事業の委託件数は目標数を上回った。 <p>④実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内会議を週 1 回開催した。会議の時間を利用し新規事業所見学、福祉用具の説明会なども実施した (年間 51 回) ・それぞれが各々のマネジメント課程での課題を発信し共有することで、事業所全体におけるマネジメントの質の向上に繋がった。
地域包括支援センター	<p>①実態把握 406 件 ②予防給付 1,036 件(うち委託 576 件)</p> <p>③総合事業 818 件(うち委託 259 件)</p> <p>④収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 297 千円 (前年比△1,214 千円) ・収入 932 千円増加に対し、人件費は異動により 1,691 千円増加した。 <p>⑤実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高田地区包括合同で介護支援専門員向けの研修会を 2 回実施した。市内の主任ケアマネの意見交換会を行い、顔の見える関係づくりと抱える課題について情報を共有した。 ・地域ケア推進会議を年 3 回実施した。地域特有の課題に対して、関係者や地域住民のかかわりで解決できる可能性について意見交換を行った。

(資料集)

【利用率】

①入所系

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	97.0	97.9	98.1	98.3	97.1	95.8	97.9	99.6	96.5	96.1	97.6	98.5	97.5	98.2
新光園	97.4	97.5	98.0	97.1	100.0	99.0	98.2	95.8	97.2	98.6	98.6	98.2	98.0	98.2
高田の郷	97.1	96.2	96.7	98.3	98.7	96.9	98.1	97.9	99.1	98.2	98.3	98.0	97.8	97.3
みずほ園	95.4	96.5	97.5	99.2	99.8	99.1	100.0	100.0	97.1	98.7	100.0	100.0	98.6	98.5

②在宅系(デイサービス・通所リハビリ)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	92.4	92.2	96.7	97.7	89.7	85.3	86.9	83.2	82.8	76.1	83.6	89.3	88.0	90.0
新光園	87.7	85.7	91.0	91.8	65.0	86.4	89.4	79.9	77.6	75.3	84.4	84.2	83.1	90.0
高田の郷	62.5	54.1	54.9	58.5	60.8	62.3	68.2	69.9	72.0	64.5	70.2	78.8	64.7	77.8

③軽費・ケアハウス

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
千寿園	98.8	100	100	100	100	100	100	100	97.7	100	100	100	99.7	100
ケア上越	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
みのりの家	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

④グループホーム

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
敬寿	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	98.6	99.9	99.0
なかよし寿	100	97	98	100	97	100	100	100	99.8	100	100	97.3	99.1	99.0
宝寿	100	100	100	96	87	98	100	98.5	98.2	95	96	100.0	97.4	99.0
百寿	97.2	95.7	96.7	100.0	96.2	96.7	99.6	100.0	100.0	98.2	91.5	90.1	96.8	99.0

⑤小規模多機能型居宅介護

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
光寿	92.4	91.5	93.2	93.3	96.5	94.0	93.1	93.1	91.8	88.2	86.3	86.2	91.6	90.0
本町楽寿	96.6	96.6	98.5	99.2	100	93.6	95.0	97.4	95.6	94.8	89.8	95.3	96.0	97.0

⑥居宅介護支援事業(介護給付管理数)

事業所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	目標値
いなほ園	140	130	135	129	134	133	132	129	125	131	132	134	132	140

